

第3部

グループインタビュー調査

第1章 グループインタビュー調査から見た課題

(1) 在宅介護を継続するためのサービスの充実

訪問介護や夜間対応型訪問介護などの着実なサービス提供により、介護者の負担が軽減されているとする一方で、訪問介護や訪問看護を受け入れる際の準備が負担になっている。また土日・祝日のサービス提供事業者が少なく、介護者自身で面倒を看なければならぬため、自身の休息が十分に確保できないとの意見もある。

介護者が仕事と介護を両立できるよう、また心身の負担を軽減することができるよう、在宅介護の継続を支援する仕組みが求められる。また、在宅介護を継続するために必要なサービスとは何かを把握し、そのサービスを提供する市内事業者を確保することが必要であるとともに、サービスを必要とする人に、しっかりと、サービス提供していくことが望まれる。

(2) 介護者自身の生活の確保

在宅介護は、介護者の生活時間をその介護に多く費やすことになる。なかにはやむを得ず就労をあきらめた人もおり、介護をしながらでも仕事を継続できる仕組みが望まれる。デイサービスは、介護者がリフレッシュできる効果的なサービスとなっている。しかし、希望する時間に利用できない、費用が高いなどの意見が寄せられている。介護者自身の自由時間の確保は、心身の負担軽減や生活に潤いを与えてくれることから、在宅介護の継続、そして虐待の防止につながる可能性も考えられる。そのためにもデイサービスの充実が望まれる。

(3) 分かりやすい情報提供の実施

要介護認定者やその介護者の中には、介護保険サービスの利用が必要となった際に、初めて介護保険サービスを熟読するという人が多い。市職員や地域包括支援センター職員、ケアマネジャー、事業者は「介護者は知識が不足している」ということを前提に、利用者と介護者のニーズを把握・分析し、分かりやすい情報提供を行うことで、適切なケアマネジメントにつなげていくことが求められる。

(4) 訪問介護員の質の向上

訪問介護員の介護技術に格差がみられる。同じサービス提供内容にも関わらず、その日に来る訪問介護員により介護の仕方やその質に違いがみられる。事業者内で連携・調整し、同程度のサービス提供となるよう平準化していくことが求められる。また、喀痰吸引の資格など、在宅療養に役立つ技術を訪問介護員が身につけられるよう、資格取得の支援を行っていくことが求められる。

(5) 介護者の緊急時における受け入れ先の確保

介護者自身が急病にかかり入院した際など、介護者の緊急時に被介護者の受け入れ先の確保が課題となっている。また、土日・祝日であればなおさら探すのが困難な状況がある。今後、老老介護が増えていく中で、安心して介護ができるよう、介護者の緊急時における被介護者の受け入れ先の確保や、確保するまでの仕組みを分かりやすく整理し、関係者間で共有することが求められる。